



第 84 号

令和 6 年 3 月 15 日

スポーツ少年秋田

AKITA JUNIOR SPORTSCLUBS ASSOCIATION

発行／秋田県スポーツ少年団 秋田市八橋運動公園1-5 秋田県スポーツ科学センター2F ☎018-866-3916
※「スポーツ少年秋田」は、ホームページでもご覧いただけます。(https://www.akitaijyo.or.jp)

公益財団法人秋田県スポーツ協会秋田県スポーツ少年団 創設60周年記念式典



令和 5 年 10 月 22 日 (日)、ANA クラウンプラザホテル秋田において、秋田県スポーツ少年団創設 60 周年記念式典が盛大に行われました。東北各県本部長、全県から、各市町村本部、競技団体、協力組織団体、指導者、育成母集団など 280 名が出席し、功績のあった個人、団体を顕彰するとともに、これまでの 60 年を振り返り、新たな節目へ向けて、秋田県のジュニアスポーツの振興とさらなる発展のために、関係者一丸となって、一歩ずつ歩みを進め続けることを誓い合いました。

本団は、日本スポーツ少年団の創設の翌年、昭和 38 年に「1 人でも多くの子どもたちにスポーツの喜びを提供する」、「スポーツを通して青少年の心と体を育てる」という理念のもと発足しました。以来 60 年の歴史を刻み、今日では登録団数が 689 団を数え、本県における青少年スポーツの振興と発展の中核として、大きく貢献してまいりました。

田口 将県スポーツ少年団本部長の式辞では、こうした県スポーツ少年団の歩みと、多くの関係者によって育てられたことへの感謝の言葉とともに、1974 年と 1982 年の 2 度の本県開催以降久しかった全国スポーツ少年大会を、令和 6 年度 (2024 年)、42 年ぶりに本県で開催する意義についても触れ、少子化の急速な進行など、大きな課題に直面しながらも、「次代を担う子どもたちのスポーツを通じた健全育成」に向けて、今後とも鋭意取り組む決意が述べられました。

式典では、県スポーツ少年団の育成、運営、指導などに功績のあった 288 人、19 団体、158 団を表彰し、ご来賓からは、益子直美日本スポーツ少年団本部長をはじめ、北林丈正県議会議員、米田裕之県スポーツ振

興課長より、今後の本県ジュニアスポーツの振興と県スポーツ少年団のさらなる発展に対してお祝いの言葉をいただきました。

式典の後には、『私が「監督が怒ってはいけない大会」を開催した理由』と題して、益子直美日本スポーツ少年団本部長より、記念講演を行っていただきました。ご自身の現役時代の体験をもとに、「怒る指導は、



子どもたちが自ら学び、考える機会を無くし、たとえ失敗してもやってみようというチャレンジ精神、そして笑顔を奪ってしまう。指導者には、子どもたちが明るく、のびのびとプレーできる喜びを味わえる環境をつくって欲しい。私も一緒に頑張ります。」という益子本部長の熱い想いに、会場全体から大きな拍手が送られました。

引き続き催された祝賀会にも 180 人の参加者が集い、県スポーツ少年団の 60 年の歩みに思いを馳せるとともに、これからの秋田のジュニアスポーツについて大いに語り合い、盛会のうちに祝賀会を閉じました。



第50回日独スポーツ少年団同時交流 受入事業 にかほ市

日本とドイツのスポーツ少年団の団員（ユーгент）および指導者の相互交流により友好と親善を深め、国際的能力を高めると共に、研修などを通して交流した。また、50回目の記念事業として「日独スポーツ少年団同時交流50周年式典」を東京で開催した。

- 期 日 7月28日～8月1日
- 受 入 にかほ市
- ドイツ団 シュレスヴィヒ・ホルシュタイン
ユーгент5名、指導者1名
- 主な内容：歓迎会、郷土資料館見学、レクリエーション、ジュニア・リーダーズスクール参加、角館散策、仁賀保高校見学、海水浴、白瀬記念館見学、ディスカッション、BBQ、羽子板づくり

担当者の声

にかほ市スポーツ少年団事務局 村上彩乃

新型コロナウイルスによる制限もかなり緩和された今年、日独同時交流の秋田県の受入先としてにかほ市が担当しました。東北Iグループとして、シュレスヴィヒ・ホルシュタインから計6人を受け入れました。

東北Iグループでは最初の県だったので、東京での全体プログラムを終え、飛行機でやってきた派遣団と秋田空港で合流し、表敬訪問や歓迎会を行いました。



初めはコミュニケーションをとることに少し苦戦したように見えたのですが、ジェスチャーなどを使ってだんだんと打ち解けた様子が見られたので安心しました。

今回、秋田県の受入時期とジュニア・リーダーズスクールの期間が重なったので、田沢湖スポーツセンターで行っているジュニア・リーダーズスクールへ参加させてもらい、パラスポーツを小中学生のスポ少団員やリーダーと一緒に体験しました。参加団員たちは、ドイツ団員を見つけるなり駆け寄り、慣れない英語やドイツ語に臆することなく積極的にコミュニケーションをとってほほえましく感じました。

ファミリーデーでは、各家庭での時間を過ごしても

らいました。ハイキング、料理、いちじく染め体験、釣り…様々な活動で充実した時間を過ごせたようです。一番心配だったプログラムはディスカッションでした。言語の壁もあるなか、お互いの意見を思うように交換し合えるのかという心配がありましたが、みんなで円になって



ドイツ団の方で作ってくれたスライドの前に集まって話したりして、楽しい雰囲気です。不安に思う必要はなかったと思えるほど活発に意見を交換していました。

4日目の最後のプログラムは、今回の事業に関わったスタッフ等も交えたBBQを行いました。ダンスを踊ったり花火をしたりして、楽しい時間を過ごすことができましたが、「あと少しで終わってしまう」とみんな思っているように感じました。

そしてついにお別れの日。ドイツ団6名が岩手行きの新幹線に乗るギリギリまで一緒にいる時間を思い出に残そうとするホストファミリーの姿が印象に残っています。中には泣いている人もいて、5日間という短い間でも充実したと思ってもらえる期間になって担当として大変嬉しく思います。

私自身この事業の担当となり、準備から次の岩手県に引き継ぐまでの期間はずっと不安でしたが、自分の成長につながるいい経験、いい思い出になりました。

沢山の方々の協力のおかげでこの事業を成功させることができ、感謝しかありません。

この交流がこれからも続くことを願っております。



第50回日独スポーツ少年団同時交流ホストファミリーの感想

「初めての国際交流」

齋藤和奏

日独スポーツ少年団同時交流のホストファミリーとして、同じ歳のイダという子を受け入れました。私は英語を話せるわけでは無いので、どうやってコミュニケーションをとったらいいのかととても緊張していました。でも、一緒に過ごしていくうちに会話ができるようになってきて、とても楽しい思い出を作ることが出来ました。

イダはドイツでホッケーのスポ少に入っています。私たち家族にプレゼントとしてホッケーのスティックを持ってきてくれました。今まで私は日本のホッケーの事もよく分からなかったのですが、イダが沢山教えてくれました。他にもドイツのことが書かれている本も持ってきてくれました。それはイダが自分で日本語で書いてくれているものでした。私達のために日本語で書いてきてくれたと思うととても嬉しかったです。

一緒に花火を見たり、おにぎりを作ったり、水族館へ行ったりしました。イダは「とても美味しい!」と言いながら毎日おにぎりを食べてくれました。日本の食べ物を美味しいと言ってくれて嬉しかったです。

お見送りはとても悲しかったです。「また会えるよ」とイダが言ってくれました。イダと過ごした5日間はとても濃く、忘れられない思い出です。

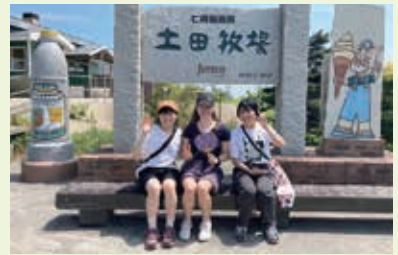


「あっという間の5日間」

佐藤真桜

私たち家族が外国人を受け入れるのが初めてだったので、日常会話に特に不安を持っていましたが、お互いに簡単な英語で話したり、スマホを使って困ることなく1週間過ごせました。またファミリーデーなどで、にかほ市や秋田県ならではの良さを伝える機会をたくさん作ることが出来ました。花火大

会や神社での参拝、滝などで日本の文化が詰まった体験をジャクリンとすることができました。特にジャクリンの友達が秋田犬を飼っていたこともあり、お土産コーナーで秋田犬を HACHI と言って喜んでくれたことが嬉しかったです。今回のホストファミリー受け入れで普段なかなか感じられなかったにかほ市を自分自身も感じることができ、改めてドイツもにかほ市も大好きになりました。



キアンと過ごした夏

佐々木 琉樹

今年の夏休みは、姉がドイツに行き、僕たちもドイツ団の受け入れを行い、家族みんなで日独同時交流に携わった特別な夏でした。

我が家には、ハンドボールをやっている超イケメンのキアンがホームステイしました。

交流プログラムの中で1番思い出に残っているのは、バーベキューです。おいしいお肉を食べたり、スイカ割りをしたり、ドイツの音楽に合わせてみんなで踊ったりしたのがとても嬉しかったです。また、みんなの前でキアンと一緒に英語の曲を歌ったのも心に残っています。

ファミリーデーには山形県鶴岡市にある羽黒山に行き、2446段の石段を登りました。お昼に行った蕎麦屋さんでは、箸を上手に使って蕎麦を食べていました。食べ放題の漬物コーナーがあり、気に入ったみたいでいっぱい食べていました。

5日間という短い時間でしたが、お兄ちゃんができたみたいで嬉しかったし、楽しかったです。キアン、来てくれてありがとう! また会おうね!



オフィス環境のトータル・サポーター



株式会社

アシスト

- 〒010-0063 秋田市牛島西一丁目5番1号
- TEL: 018-884-7600 FAX: 018-836-6088
- E-mail: info@assist-one.co.jp

- オフィス通販『アスクル』正規取扱店
- 事務用品・事務用機器・OA機器・オフィス家具
- オフィスデザイン・プランニング設計
- 防災・災害用品資機材
- OAフロア、可動間仕切、造作家具
- インテリア製品及び内装工事設計施工

秋田県スポーツ少年団リーダー会 活動紹介

県内の団員（中学生～25歳）で構成する「秋田県スポーツ少年団リーダー会」は、自分たちで企画運営する研修や交流、各種派遣事業で「スポーツを支える」活動を実践しています。現会員数45名。

令和5年度の活動 () は会場

5月 総会 (秋田市；秋田県生涯学習センター) 事業計画の協議や新役員の選出を行い、ここから新年度の体制でリーダー会がスタート。今年度はパタンの実技研修も行いました。



7月 秋田県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクール (仙北市；田沢湖スポーツセンター) 小学5年生から中学生の団員が2泊3日の日程でスポーツや野外活動、集団生活を通して交流を深めながら行う宿泊研修です。プログラムの多くはリーダーで企画・運営しリーダーのスキルを発揮する大舞台であり、スキルアップを図る場でもあります。今年度はコロナ禍明け初の開催で、かなり大変でしたが、団員の元気に楽しく活動する姿を見て頑張ることができ、多くの経験を積むことができました。



7月 日独同時交流受入・派遣 (派遣:ドイツ、受け入れ:にかほ市) ドイツと日本のスポーツ少年団員が相互に訪問し、スポーツ活動、研修、ホームステイを通して約2週間の国際交流を行います。今年度はコロナ禍明け初めての派遣、受け入れが再開され、有意義な交流が行われました。秋田県からはドイツ派遣が2名、にかほ市が受け入れを行いました。

8月 シニア・リーダースクール (静岡県；国立中央青少年交流の家) スポーツ少年団やスポーツ指導、安全管理などを学び、日本スポーツ少年団が認定するシニア・リーダーの資格を4泊5日で取得します。全国各地のリーダーとつながりをつくる絶好の機会にもなります。この資格は日独同時交流の派遣条件の一つであり指導者の道にもつながるものです。秋田県からは3名参加。

11月 北海道・東北ブロックリーダー研究大会 (弘前市；岩木青少年スポーツセンター) 北海道と東北のリーダーが講義やスポーツ活動、各道県の情報交換など2泊3日の日程で行われました。秋田県からはリーダー2名、指導者1名が参加し、県外のリーダーとの交流を深めることもできました。

12月 全国スポーツ少年団リーダー連絡会 (オンライン開催) 各ブロックの研究大会の活動報告やディスカッションなどを行い、全国のリーダーと交流しつつ、リーダーとしての知識を深めました。



1月 リーダーの集い (秋田市；県スポーツ科学センター) リーダー会の活動紹介や派遣事業の報告、レクリエーションを通して交流しました。実技指導の実践で経験を重ねることもできました。

3月 リーダー研修会 (秋田市；県スポーツ科学センター) 令和6年7月の全国スポーツ少年大会の秋田開催に向けて研修や話し合いを行います。もちろん交流を深めながら！

◎秋田県スポーツ少年団リーダー会から 次年度は秋田県で全国スポーツ少年大会が開催されます。大変なこともたくさんあるとは思いますが、来県する参加者に喜んでもらえるよう頑張ります。そのために、もっと仲間を増やしたいです！中学生以上の皆さん、ぜひ一緒に活動しましょう！各団からもPRをよろしくお願いいたします！ ★問い合わせ 秋田県スポーツ少年団本部 電話018-866-3916



目ざせ世界の頂点!

がんばる
ジュニア
応援します



あらゆるニーズにお応えする
松原印刷社
〒010-0951 秋田市山王七丁目5-29
TEL 018-862-8760(代)
FAX 018-863-0005
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>
E-mail:matsubara@matsubarainsatsu.co.jp

第46回秋田県スポーツ少年団(競技別)交流大会

9月以降は5種目において、競技を通じて交流を深めた。(※成績は団体のみ掲載)



●ラグビーフットボール

9月23日～24日(大潟村ラグビー場)

- 参加数 273名
- 優勝【高学年】Aブロック:高清水ラグビースポーツ少年団
Bブロック:男鹿ラグビースクールスポーツ少年団
【中学生】Aブロック:高清水ラグビースポーツ少年団
Bブロック:秋田ノーザンブレッツ・ジュニア
ラグビースクールスポーツ少年団



●柔道

10月22日(秋田県立武道館)

- 参加数 15団 149名
- 【中学生】男子:小町柔道クラブスポーツ少年団
女子:田沢湖慈愛館スポーツ少年団
- 【小学年】男子:小友スポーツ少年団
女子:天王柔道スポーツ少年団



●卓球

11月19日(由利本荘市総合体育館)

- 参加数 24団、259名
- 優勝 男子 矢島卓球スポーツ少年団A
女子 県南卓球道場スポーツ少年団



●ミニバスケットボール

11月25日～26日/12月2日～3日
(秋田県立田沢湖スポーツセンター)

- 参加数 女子204名/男子217名
- 優勝 女子 HINAIWINGSミニバススポーツ少年団
男子 刈和野ハリキリシューターズスポーツ少年団



●スキージャンプ

1月8日(花輪スキー場)

- 参加数 10名



●スキーアルペン

2月4日(ジュネス栗駒スキー場)

- 参加数 40名



●スキークロスカントリー

2月10日～11日(たざわ湖スキー場)

- 参加数 50名

私たちの団

各団の一行目は団名(市町村)、種目、団員数(学年)、活動場所、代表指導者

湯沢市ハンドボールスポーツ少年団(湯沢市)ハンドボール57名 湯沢市総合体育館 長澤 善和
湯沢東小学校 6年 佐藤 愛咲
高学年と低学年に分かれて活動し

湯沢市ハンドボールスポーツ少年団は57名の大人数のため、
ていて高学年はレベルアップを目指し試合で勝てるように、
低学年は楽しむために日々練習に励んでいます。高学年の練
習では1つ1つ攻撃の形となるフォーメーションをチームで話
し合い調整しています。試合でフォーメーションがきれいに
決まるとチームの一体感が感じられます。ゴールを決めた時
や味方がシュートしやすいようなパスが通った時会場が盛り
上がりハンドボールの楽しさを体いっぱい実感できます。常
に目標を高く設定しコミュニケーションをとりながら、個々
の課題や目標を達成できるよう頑張っています。仲間やコー
チ、親への感謝を忘れず、これからも楽しく活動していきた
いと思います。



仁井田野球スポーツ少年団(秋田市)野球12名(小3~小6) 仁井田小学校 川上 哲治
仁井田小学校 5年 川北 隼人

仁井田野球スポーツ少年団は、おたがいに協力し合い、つらい事や苦しいことがあっても
こえられるチームです。普段の活動では、練習でつらくてもみ
んなで声をかけ合い、はげまし合えることがチームの魅力だ
と思います。

練習では、ゴロ捕球や素振りなど基本の練習を主にがんばっ
ています。あとは、バランスボールを使って、二人一組で運ぶ
体幹などの練習にも積極的に取り組んでいます。

ぼく達の目標は、一つでも多く優勝をとることです。目標を
達成できるようにがんばります。



羽城V-WINGS女子バスケットボールスポーツ少年団(湯上市)ミニバスケットボール24名(小1~小6) 飯田川小・大豊小 菅原 徳之
飯田川小 6年 伊藤 波美

私たちは、6年生7人、5年生9人、4年生2人、3年4人、2年生1人、1年生1人で活動しています。
指導者の皆さんには、基礎から始まり、中学、高校でもバスケットを続けられるような、練習を行って
もらっています。

私は2年生からバスケットを始めて、練習に行くことが楽しかったし、早く上
手になるために、自宅でも練習を毎日していました。

団活動では仲間が増え、練習試合や大会参加することで、たくさんの友達が
出来ました。去年までは、あまり出来ませんでした。今年から団のイベントが
たくさんあり、合宿、マラソン大会、BBQ、クリスマス会などで、団のみんなで楽
しくやっています。

今年(は、最後の地区大会で優勝できませんでしたが、後輩のみんなには、3
冠目指して頑張ってもらいたいです。

私は、バスケットを通じて、みんなと出会えたことが、本当に良かったです。
お母さん、ありがとう。



Tombow

最後まで、驚くほど軽く引ける

テープのり新基準 独自機構「エアータッチシステム」搭載

エアータッチ
システム

新開発
パワーネット
テープ

静音設計

エア
フィット
ヘッド



エア
PIT AIR

テープのり ビットエア- 400円+消費税

AIR
touch

オリジナルギフトや
記念品に!

[テープのり] ビットエア-



別注・お名入れ対応も可能です。

お見積り・ご注文は、お近くの文具取扱い店舗へお問合せをお願いします。

インクジェット
印刷対応

小ロットに
最適

株式会社トンボ鉛筆
<https://www.tombow.com>

夢を支える応援団

スポーツ少年団を支える指導者・育成母集団の声

子供達と一緒に

八郎瀧剣道スポーツ少年団

指導者 小柳清陸

当団は、八郎瀧町で活動している剣道チームです。現在は、五城目町、井川町からの団員も含めて小学生が10名で活動しています。

人数は少ないですが、日々の稽古で少しずつ実力をつけていて、子供達が稽古を楽しんでいるように感じています。また、感染症の影響で制限されていた大会や練習試合等が通常に戻り、チーム内の交流だけでなく他チームとの交流もあり、剣道を通じて仲間ができて子供達の活動も広がっています。

子供達が大会で勝ちたいという目標を叶えてあげる為に日々の稽古を続ける事はもちろんですが、試合に勝つことだけでなく、稽古の中で心身を鍛え、丈夫な身体と健やかな心を育てているところです。

親の会の皆さんそして当団に関わってくださる方々、いつもサポートそして応援ありがとうございます。子供達の頑張りに負けぬよう指導者としてこれからも一緒に頑張っていきたいと思えます。



「つなぐ」

本由エアアタックスポーツ少年団

指導者 三浦敏弘

当団は、平成15年9月に本荘由利地区の男子バレーボールに興味のある子どもたちが集まり、学区を越えたクラブチームとして誕生いたしました。一時は団員1名での活動という期間を経験しながらもなんとか今に至り、今年で20年という節目を迎えることができました。現在は団員12名で活動しております。この20年の間に入団してくれた団員、協力してくださった親の会の皆様、たくさんの方々を支えられながらここまで来ることができたことを心から感謝しています。

我が団は、創団時から「学校ファースト」を掟としております。学校のことができた上でのスポーツ少年団活動であることを忘れてはいけないということです。また、技術指導だけではなく、当然のごとくあいさつ、礼儀、感謝の心なども身につけることができるように、日々指導しています。バレーボールは「つなぐスポーツ」これからも、ボールをつなぐために気持ちをつなぎ、心をつなぎ、人をつなぐ団活動を目指していきたいと思えます。



NO!
スポハラ

NO!
スポハラ

私たちは、「スポハラ」のないスポーツ界を目指します。

令和5年度 第36回秋田県スポーツ少年団指導者等研究協議会 (兼)第68回秋田県スポーツ少年団スポーツリーダー等再研修会 (兼)秋田市スポーツ少年団指導者研修会

- 期 日 令和5年12月9日(土) ●会 場 秋田県生涯学習センター
- 参加者 登録指導者等 142名

今年度の指導者等研究協議会は、日本スポーツ少年団指導者協議会運営委員長の伊藤秀志氏(静岡県)をお招きし、「キーワードは『楽しさ』と『信頼』～今、スポーツ少年団に求められるもの～」のテーマで講演を行っていただきました。

伊藤委員長は、今年度からスタートした「日本スポーツ少年団第11次育成5か年計画(アクションプラン2023-2027)」の重点事項の一つである「スポーツ団体ガバナンスコードの遵守状況の自己説明・公表」を中心に説明しました。

アクションプランには、計画期間の5年間で「全国の単位スポーツ少年団における『スポーツ団体ガバナンスコード(一般スポーツ団体向け)』の遵守状況の自己説明・公表率を100%にする」という数値目標が定められています。

伊藤委員長は、「最初はガバナンスコードって何?と思うかもしれないが、説明・公表のハードルはそれほど高くはない」と早期の実施を求めました。秋田県スポーツ少年団では、今回の研究協議会を契機に、来年度から県内の各単位団でのガバナンスコードの説明・公表を徐々に進めていきたいと考えています。



第67回秋田県スポーツ少年団スポーツリーダー等再研修会 (県南会場)

- 期 日 令和5年12月1日(金) ●会 場 横手市ふれあいセンター かまくら館
- 参加者 31名

NHK プロフェッショナルで紹介された、滋賀県多賀少年野球クラブ監督の辻正人氏を講師としてお招きし、「大人の世間体を無視する力 子どもの本能を尊重する力について」講演を行っていただいた。自ら中学、高校時代に経験した厳しい指導を子どもたちにされてこられたが、2017年に行った保護者アンケートをきっかけに、指導方法を大きく変え、腹がたっても決して怒らずに、楽しく選手を伸ばす指導を徹底し、その結果、1年後の2018年、高円宮杯第38回全日本学童軟式野球大会で全国優勝を果たし、翌2019年の同大会でも優勝され、2連覇を成し遂げられた経験をお話いただいた。また、ご自身の子育ての経験もお話しされ、スポーツ少年団のみならず、選手を育てる指導者にとって、大変重要な知識を学ぶことができたと感じる。

スポーツ及び私生活にも応用できるご講演で、スポ少指導者にとって大変勉強になり、今後の団活動・指導に活用していただきたいと考える。



「第62回全国スポーツ少年大会」開催! 大会テーマ:「リスタートII 秋田で繋ぐべ 希望のタスキ」

- 期 日 令和6年7月27日(土)～30日(火)
- 主会場 秋田県立田沢湖スポーツセンター

各都道府県代表のスポーツ少年団員・指導者が参加し、スポーツ活動や文化学習活動、野外活動、交歓交流活動を通して青少年のこころとからだを育てる「第62回全国スポーツ少年大会」が、7月27日(土)～30日(火)に田沢湖スポーツセンターを主会場に開催されます。

本県で同大会が開催されるのは、昭和57年以来、42年ぶり3回目となります。

全国の仲間と交流できる貴重な機会ですので、多くの団員(中学1年生～高校3年生)が参加するよう期待しています。



↑
詳細は、こちら

大会ロゴマーク



原案作成:にかほ市リーダー会
松本優月さん(高3)